堂こゝろ
後ゑん
春忠ひ
何ゝ里
あゐの

912.3
モ

盛久

（ワキ上）是ハ鎌倉殿の御内に土屋の何某にて候扨も

主馬判官盛久ハ丹後乃国にありけれハ

去のとしの冬の比より召人となり候

盛久をとくとく関東へ下し候（して詞）いかに

土屋殿に申へき事候（ワキ）何事にて候そ

（して）唯今関東へ下り候ハ道の路次にて候へハ清水へ

乃前へおしと語く給候へ　〽掛れおちて安き
間乃事ふそのへば以て南ゝ東山の方へ
うるとそれら建地也　シテ〽南無屋大慈大悲の
観世音さしも草さしもかしこき誓ひの末
一稱一念猶頼みのまゝに誓ひの
御法孫にかゝやくあら有難の名所
上いつも又清水寺世花盛り
同　頼め者

同　あさぎ名おあの　シテ〽春かゝそねも音羽山
流れの水の人へ志して　〽見渡せば柳桜を
おこきませて錦とみゆる花のそら　まる
いつゝ思ひ出ての涙のうへにあはれ
さそれ名におふ建　シテ〽白れなりゆくやも鳥
の御はれ生れ世にはれなきかへれ思
いさ嵐秘曇藤行の道関乃いつはなかな

むけゑぞ加茂川を流れはつる色ぞ添
あかず寄は浪と満づ波風にえゐ
河原よ川の辻芝やしゆも帰りの孫
てるも月もわれなくも知もしらぬ
も逢坂の関守も今は我をばよもと
め勢田の長橋うちわたり篠原や
は鏡山さのみ年へぬ身なれどもおもはハ

老その森と見しもおもひやられおもひさの
うれし夕塩の道とは涙よくされ袖ぬれ
八瀬をばみても八橋やたかし山く
塩見坂たれの浜名の橋とうちわたり
橋本かくて君んと山ひさやまゆあり
さよの中山越えてかゝる関の大
井河を越り渡れば宇津の山　蔦くも関に

清見[illegible]月の入海風[illegible]浦打[illegible]
れハ海[illegible]雲[illegible]の[illegible]山[illegible]
行や[illegible]や鎌倉に着にけり
シテ 是非は道ある[illegible]
[illegible]
て此関東は[illegible]の家[illegible]
[illegible]の[illegible]寺の[illegible]

実に[illegible]雲水の[illegible]世に[illegible]し
[illegible]世[illegible]や我ひとり[illegible]山の
雲[illegible]
[illegible]
[illegible]や[illegible]や國[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

しそハ〽紅梅殿とやきこしめされ候ハ〽ハ色そ

れりしの昔の事を聞よしあらは〽さん候

おなしく此梅とひらせて候へ〽も紅梅の事の

ことさら此社の御かくれかくれ候ハゝやさしの御

事なれハ〽言葉ハさなから唯今も独り

にてハおもふかたへも御へりてさらはん

よりもかくちかくやとらせ申す所に来り候

ふるき事ハさらに宮殿ハ唯今ハ

〽けにや此宮殿こそ此社の御跡の世に名をまされ

て候〽梅ハ飛梅桜ハかれよりちりて其の名

おあれハ此物語ハ〽梅もく此梅の御寺

志やすくいふもおろかなりさらはまた

さらハ此程の事ハ〽此の念佛をハ

廻向よりおつねに二世まての菩提ハ〽さる

中にわけてたのもしきは我らかこと済
まれ観世音を信し奉り毎日御経を
読し終て今日のことく読誦すれは。
先さ読誦申さるは　それにそへたまへは
母もかれ静によみ読誦すれは大悲もうれしくおもひ
給ふらんとおもはれて　大難や大悲大悲
さての出頼定業亦能転ハ菩薩の直道

冬や稲のくる菩薩をそれは我らに
導き給ふ今生の利益ならひに後世菩提
をも願ひての御ん二世の願望をもかな
へ給ふ大悲の擁物豈虚妄あらんすや或遭
王難苦臨刑欲寿終念彼観音力刀尋
段々壊　とき経や此経を読誦申せは。
此命まさのりうまれたまへ　実に誠経読誦は

抑此文字なく銀人金さんのさのよわうかた
是法ハ凡慮の道〽文充魔悪退散
よふ文字ハ御霊よ甚身にふ海まれハ
〽實ハのりやまかふ海つゝ命ハあハ此文ハ
誦ぢ海よわす時諸悪趣地獄鬼畜生
生老病死苦ハ八魔悪念織此文のおかけハ
円下
わかく此悪執まも三悪道の道へ迷

あさましと父母の命を打まかせ海ちかく
あそハ為生れ若生界山ハら加ハ法記
一佛今高方ハあるゝ文楽婆示現あハ
ミ我おりふあハ釈世尊三世の利益門くぐ
ミ刑戮よりちかハ身のちかひよりいつれりへ
ミ風蔵久続のたよもうらしらつりや
〽わかるきやみ輪廻のうらみわが界変

なりけりてんのひさしき河のそこやけ　ツレ　立ちこに
八百歳のよはひを経て爰に今あり
ちやくぢやうはへとよ　シテ　ねまちの空の
八千歳の世のためしよく尊き
御　ツレ　岩の面の御薬を取つて見れば菊の
露ならん　シテ　露も千年の　ツレ　露よ
星霜の年の世　シテ　菊井の汁よ　ツレ　露は

同上
星　菊露は世に醍醐くらうは世の露く
なりけん　ツレ　桃菊井の汁よ君がための薬は
宝祚長久になりてやくなき結へ　シテ　風久
やうえいおよびてしうの天の下
所の人々は歓喜のみならず治まる代
太刀ニ九
太刀とり緩く治まりつつ様々天下
よろづ太刀ゆるくまつりごとのためしの

ひかり眼にふさかり取落したる太刀を見れは
二つにおれてたん〳〵となる[illegible]
[illegible]〽盛久も[illegible]
[illegible]〽いよ〳〵[illegible]
頻讀誦の此経の文〽臨刑欲寿終〽念
彼観音力〽刀尋段々壊の経文あらたに
今目の[illegible]末世なれ

[illegible]此経や[illegible]
[illegible]の御つけ[illegible]
[illegible]盛久か鎌倉[illegible]
[illegible]〽盛久は[illegible]盛久
我[illegible]の[illegible]盛久
まとひても夢想[illegible]老僧[illegible]の
此事[illegible]〽其上[illegible]今

秋悔しきの滝是まてなりとてハ
こゝ恵みまいらせんやと上人へ申す
我正覚の此縁今こそつゝがなくすゝめ去
金色の大悲の光ハ清く不断の雨ならむ
然るハ我等光陰をおくる三月朝暮におくる
起さ　後の世を讀誦せしハ名号ハ付間近け
いかにも成名を称り行所ありて事
もなく　初瀬より源氏の一天あまねくせし
せんかたなく飛よりし名号を唱へ参らせ
さ清めし也んらの一天下よりめぐりのありさまを
はやとも八聲の鳥も鳴きぬと見えてさら往鏡
僧か香爐の雪をかゝげ水晶の数珠を
法衣くり杖をつきつゝ念仏申し
さみだれ我か浄瑠璃東山の清水のなかれわさ

里より海士乙女に契りありけるが[illegible]大職冠の
[illegible]房前とよりも[illegible]しらん[illegible]一言[illegible]りとそも
我を念ぎ御[illegible]のよみがへれ[illegible]のうへ
しいかん[illegible]海年月経念[illegible]とね
きんて淡公[illegible]よろこびて[illegible]くよみ
[illegible]し我海士の命にかはる[illegible]とて[illegible]
[illegible]を別さめにより蔵人[illegible]よく[illegible]

親子の心いかゞし[illegible]もの[illegible]しゝ
[illegible]も[illegible]も付し[illegible]とも[illegible]さ[illegible]
[illegible]りあん[illegible]をいりかし[illegible]を[illegible]りの[illegible]
の[illegible]り[illegible]もいと[illegible]を
[illegible]これを[illegible]蔵人[illegible]り[illegible]
われはくめきる達八世の[illegible]さ蔵人[illegible]
命をすて子[illegible]歳此書をいぢ[illegible]そとぽさう

是とをさ侍ハ将も平世にも菊なり
若とらけたる事にさ所いつハ盛久御
若年の盛久も平家譜代の侍武略
乃達者なりきらんふのかんれう先陣し
めてたかれなりて世小松殿山さけり
の遊後の山酒宴にもとく〳〵主馬なり
次爾ハともあてのる関東までも隠れなし

然文元によることひの折あれハ唯一さよの
山祈念上ありけるにて住所庵御と出家し
て藤さてまへとや御く此事名籍し
くえるに時ざりるにハ先気ありし盛
久か時にハわかす世となつて源氏へうつ
れさあらかくわかれや一天四海のうち
のこらぬの国まて日本とのかり給ふ京な

此とうね酒宴なりけるの喜見酒宴[illegible]

[illegible]の春霞見くりぬ有[illegible]のかゝめて色を

いろふか秋露[illegible]の松れ[illegible]の[illegible]

[illegible]れゝ[illegible]

[illegible]中[illegible]の[illegible]

のみる[illegible]てしさく

ワキ詞

俊寛

是ハ入道相国に仕へ申者にて候。扨も中宮御産の御祈のために非常の大赦おこなはるゝにより国〻の流人を赦免有。中にもきかいか嶋の流人の御使に某罷向候[illegible]嶋よ[illegible]つまハゐりや[illegible]流人赦免の

[illegible]

詞[illegible]ん　是ハ九州薩摩潟鬼界が島の流人の内丹波の少将成経平判官入道康頼二人の者にて候也　我ら都に有し時熊野参詣三十三度の歩をなさんと立願せしがその望をも遂ずしてか

ゝる遠流の身となる[illegible]事ハ[illegible]海の辺に勧請申奉り[illegible]道中の九十九の王子を悉く順礼の[illegible]宮居[illegible]

とられて翠華は去て難き花のみ残りて衣

にわ西こと遷ふ盃りく網れ世と

まつて冥界の鎮守と定る身れその

闇より冥きさがに入にける玉兎

晝眠れ雲母乃帳に金雞庭窓に不萠

乃枝寒蟬枯木をいだいて鳴つくし

かくへとめくらされ後寛の身のとれまら

ふくは夢か中西に来の只何事も

ゆえある花落葉の人を継く見れは六経

都かくは入は宮城に経都かくは

はれわ達蔵は経都かくは入何の為に

覚也出也に其より先調とは

やさしと出の所まで母も世経付れて

は覚き来国の何の為かくはへされ

出る水一滴を持て参りては　其一滴は
仙薬の[illegible]徳の内に[illegible]
由[illegible]也「[illegible]とも見えて[illegible]
家は而も谷川の[illegible]菊の[illegible]なれは
御[illegible]「[illegible]酒と[illegible]
事も[illegible]菊の[illegible]
長生の　時も重陽　[illegible]菊[illegible]

山路　菊水の　[illegible]七百歳を送りし
[illegible]菊乃水　香も[illegible]
実も葉も菊水の　心の庭も白露の
かまへてかす山路の菊の露乃[illegible]
もち[illegible]
[illegible]
[illegible]

しやうのそら何よ付ても恋しき都[illegible]

[illegible]法勝寺法成寺[illegible]の[illegible]

今は[illegible]の秋

[illegible]のさかづきの酒[illegible]

[illegible]流るゝも又[illegible]河の[illegible]

[illegible]の[illegible]も今[illegible]

[illegible]

[illegible]程もなく[illegible]鬼界が島に着きて候

[illegible]舟より上り流人を尋ねばやと思ひ候

いかに此島に流され人の渡り候か都より赦免の御使

に参りて候

シテ「何と都より赦免の御使と

[illegible]流人ハ是に候

ワキ「是ハ相国よりしやめんの御状なり

[illegible]

シテ「[illegible]

康頼赦免の状ゆくはは読申さうず
少ては（安）「某がやは先俊寛は読見候へ。
（と）「其方ゟ先かく読候へ（安）「さらハ成経も読安
れは頼見なら書候かくのは（まり）「先読候は（安）候
寛も近う寄りて拝見候へ。抑此度中宮
御産の御祈のためにひじやうの大赦を行
はるゝによつて流人赦免之間
鬼界嶋の流人の内丹波少将成経平
判官入道康頼二人ハ赦免せしむ也寛ハ
暮ハやおふ有るやは（と）「其ふさや何とて俊
寛が名をばよみおとし給ふぞ（安）「いやさりとも
てらは名ハあらバこそよみもあげめん状のおもてに流
読給へ（と）「扨ハ執筆のあやまりかさてもや
ゆらん（と）「いやそれ礼紙にも書あらはせ赦免

成経二人赦免と書かれたるは　抑俊寛
一人をば[illegible]か　[illegible]れず
[illegible]罪も同じ罪配所も同じ配所
非常も同じ大赦なるにひとり誓ひの
網にもれてしづみはてなん事はいかに
此程は三人一所に有つるだにもさもおそろ
しくすさまじき荒磯嶋にたゞ一人は
なれて海士の捨草の波の藻屑のよるべ
もなくてあられん物か浅ましや歎くにかひも
なぎさの千鳥なくばかりなる有様かな
時を感じては花も涙をそゝぎ別を
恨みては鳥も心を動かせり元来此
嶋は鬼界が嶋と聞なれば鬼有所
今生よりの冥途なりたとひいかなる

執鬼ありと誰哀かゝかしこ流人ぞ住
をとうしが鬼神もかんとおもひかゝらく
の姿の地獄波濤の島きるものもな
く八我もたらかれん せめてかんのおもり
かやうにかよをさ溺まで地とどみ门ひら記
あるし跡とも行くるみるくも成
鍛者形もがさむるその名計あれのも

畾紙はやみにかんとおもひくるしく笑
都氏後寛もしける文字八字のおしへ
是の極も善の悪はさめよくと現に縁
寛の有様とこそおもひそあはれ
かくて時刻も移り成経康頼二人は
たゝやおおれかされはへとよ あけはさめ
竹攸へさの孫てよその哀を世かりけらり

二人ハ舟にのらんとせしに　傾城も舟に
おくれじと安針の綱よくりつゝ同船に
乗んとせられし　傾城ハ舟にのらず帰
とばかりうかのうらひきされハ　こゝて風す
おかみけれ私と云事あまハせめて命ハ
の地まんありたなさけの世でこそへ
情も知ぬ舟子ぞういを振わけかへんと

是れも引はる命のつなさへみじかゝり
出舟のともづな解捨てまた行に
舟人ハりつかゝと切て舟をおしだす
出帆せんの波風にゆきまよふらばの海
命あやふ舟のとゝのせされて
別るゝ後寛も松の浦よ比まゆて
て松浦小夜姫も領巾ふるよりも海さと。

静かに波も治まりて嵐の外の風も
や錦を錦よのかりあはれよろしやいと直し
て見る帰る源なきへ御心つくし侍らへ
海路とまてよよのよの浪をもかけてある
新と梶の音と鳴らして関路あり
舟やいかに文波の清くも繁く窮
と月さえ渡るかな月

海路をもへや思ひの誠の神くれ
月のみぞそよ新りくて浦てよくよふ
静かなるよ深き流さ清き
波のかなれ跡絶えて舞ひもへ
も清てかぬ盛よろりあて消えて
如來の声

春栄

ワキ
是ハ高橋乃權守家次と申者にて候
扨も此度宇治橋の合戦破ぶれ落
人数を隠くれ候中に増尾春栄殿と申人を
生捕て候ば此由を申あげ候へば近き様
ちかくしく申せと仰出されけるが痛しくおから
此よしを春栄殿へ申さうやと存候

しそかゝり へ菊ねはやと守らぐく花もや風おろさ
そふ境 曰 是ハ武蔵の国の住人熊谷の次
郎直実也扨も此度宗徒の合戦よ
わの名ず其方ハ扇を射させずとかぬき
ひとおろ人名ゝ志りて名のろハ首中く
海上平家ハ深くとせ捕まて源氏
え八生捕の人数近き将ハちらで海

よしやよしやろ其もめしうとの数ハいらじやと
思ひ唯に春栄花のみ家に有りし恵の上住別
しトル都を出て雲井をよそに見捨ても
猶夜日も重なりて行頼ハ名ハのミな
し浄土の願ハ三尊ハ花ハのミにく
詞
意の願よ浄土ハ三尊ハ花ての心はわろ
ゆくめしうとの身行をえ今も穂くほん

申けれバ對面仕度よりしとや申ける〽（トモ）是ては
〽（ツメ）何と喜宗度の拙き申されける對
面仕度と申ハいかゞ何とて梶原成出とやさ
ぬる宝にハ海やまなく喜宗度のは車
ハ別て痛ましく思ひ存ずる處に對面せしと承り
やはや〽我ぞ太郎ハなく存じたる力をかんと
對いやハ〽（トモ）爲何やハ〽（ツメ）喜宗度のゆるれ
あらいさきある事のふとハ〽（イロ）是やは梶原
喜宗度の為にはゝ何さかハ何やくも海るは
〽（イロ）さらは是は喜永が兄梶原の太郎種
直とやる者にて候が今度宇治橋にて合戦に
ともに喜永と一所に候ひつるが手負
を射させ其手を負ひかねて有る所に
思ひ定め申べき所にては喜宗源入て生捕

遠くハ錦に見る程かゝりて見送り参めし
うしれ我よ入二所にかゝせられんと存候に参
てハ何とぞ致さん参らせ候に合られ候
旅里候へ　それ　〽妻里取ハ兆消て候せ儀よ待
しくバ物て其里と参取度に申候へ　しバ定に無
候御候へ　〽我御申てハ　それ　〽かゝ何よ参取度に申
〽ささ来れバ御身に見とも常く見まゐらせ候

ハ遠ハ射而候へ　春　〽職しりまゝハ見かくハ
者共もも度宇の櫓の合戦よ手下ハな
最の定ともそ取候へまで　それ　〽かく不思儀後
きつくハ合見と仰らまでハ拘なもあかゝる物の
ひまもりそゝハ読んて候へ　〽われよ其の男もせハ
春　〽不思儀の事申せバ是ハ如何にやひつし
下人〽かくハ意遠して待候へ　それ　〽桜之職参

下人申候つか文ハ威て其を申候へハさゝせん
の人奏聞り候か（して）是非候（これ）問も近道理を尋
承度にやて候得共兄ハ常に家へしゝ常に代り
候かつき下人ハ其て候へハ意を及つやせよの候
事成ハ候何とてか承つまゝしかりきを承り
候そ（して）忠節のくれたる兄候をも志厚めて申し候
進上候へハ下人の身分らいて兄を得家へ一御礼たるへし

せの道に候へハ主の義をもちて主の者にて兄
と名乗ハ其にてちまた世之候へハ下人と名乗
ハ旁川のへさつ人道ハ定て候ほとの身をもつ申と
またいつれハ住所かわ候にまじて候て合
らまじて綺羅候へハそれ行し対面し下人の兄の猪
貴之刀候世中候へし（これ）実に御免にて候哉
万葉の心中よりも世に候也しも附け被候

きこゆれバ妻御はへ〽（しと）髪くわ父宮きこえん
給やはへし〽（すれ）いつれ妻子眷属にやいゞ唯今の者
とハ慈のことゝやてだゞへ近寄しての志ちら
ば若君殿中納よ承役はゆるさゞ給さそとそ
と承え給へバ方へ給り給へ〽（した）いつれ妻子
給へて其とて下へとハやて折もけ度宮に
請かれ合戦よ来りてあれ扉と打くれぐ兵

とれのとよそぞかるゝにれきりそうし
諸にぱい御身ハ御へ入し生捕まつりてなくか
のせんとをもつみ廊されハだ下人〃と云事ずみ
おゝ御家君そ給へ去なからぞ一通よもう
せゝれんれよ是まれ遁く事ゝなゞ御そてさ
たゝりにたゞや我〽（春）め御よ海三世のよりうと
おひ是まで承ゝ本上給はゝしゝそれ延べとも

聞きければ有難の御代なれや
扨ハ扨ハ薬の水ちゝやせし也〽深山の
出所ハよろづ代の〽流れ久しく世の〽秋
も下〽やすかつ深山木の稍を伝ひまさり
し桜ハ花よ影よりも緑と下〽とゞろけるも
遥より遥よりもあらし〽附をもてこゝろも
そよ吹く松も葉も音ぞせざれと見るへきかな

ちやうく蓬莱とまうすなり〽山路深う
附尽ても松がゑがねをむすびや〽一年
年の名もえてもみかはす髪し深雲也
〽是を名にしたまふ蓬八かんのゆきハ又を
打〽恭れくわか師匠を川〽今参
楊尾の薬水ハ〽楊柳見を下〽空に
〽是ぞ蓬莱ふかへさん〽幾千代を重ね

いや兄に角に命をば持ちまして将監一家中く
腹切らんとて刀に手をかけたまひしに刀を取
りへ命をしく惜しみ給ふは兄の命を助け申さん
と兄に兄弟の命をば中々つまる君の不忠と成るべう
思ひ定め給へ兄はせんなく将監も喜永も
くやしと喜ゑの無も常なれどもこれあり
実将急にも兄討成とて敵よ持をもる

おほりく　宮藤道則は兄弟の御命を
家中我らも藤浪仕てはいかに将監よ
申さる事なれば此喜学殿の御事別てはる
われらまつの御よふかくすまず子と一人捨てては
と思ひ申せては此喜永殿の両指おとしたれ
わがみのおかげに兄の命もたすけれ捨へりし其
上結一所を懸りお討ちの様ん所人ありては

尾何ゆこのわくあるかなやぶ其口今やうう
も路いろつ事中くいだ又種命よりのひさや
きいて稲根と越さにすめうさと路さらし
申せとの御事にて御濱いおうら力あるべし
春栄殿ハ御さいこの御用意候へ種直ハ春
栄殿の御伴り候へ　シテ　いかに高橋殿にては　ツレ　御すれ
て給そ　シテ　春栄の事をいひけるに者の事ハ

ても種直春栄をたすけ乗とちらして終り候へ
ツレ　是ハ何ゆへにて候へ尤春栄殿の御事ハ子細因縁
あるゆ角にりてゆる御供く敵とあらは種直
な急ぐ御使い候へ　シテ　御意にゆくへ先びたに
松と申す春乗ちらし春栄を助けて終り候へ
ツレ　是ハ御ゆさゆく九伴く大橋かハ成る衆
御ん意御伴り候へ　シテ　梅も力なしすぎ是近

ありて喜見の宮遠となれ修て海の事なさ
ふるさとの孫は又父は春栄と一所にあらずして
給ふへ〽（ツレ）父や兄にもわかれては〽（シテ）いまは春
栄をば〽郡の物は送り給へ〽いつにか太郎
（小）〽浦のかひ〽（シテ）海は名里に通ひ母こそにやさ
やくは春栄春栄か先祖修俗にて孫ぞくは候に
ちる世の道理をさる程に藤成は帝にこそ召されけれ

と語くよし〽（下）是成ほりも種直か母の方
より孫か身より佛の親世喜種直か親なれ
悦び給へと語くやさしく〽（春）是なるみそ
喜春か宮後比みかく給也か親又かくや爲
孫か残る思髪の濯と切さりの書一
筋と手本らすてさ也給の髪と喜永か
新りくよ宗との宮とやかて喜かれても我

しそ諸はれとも弟子へきにさいかくてぜい
さんの子とハさんとて證さ給りん母上の
めんの門出山院まて痛しや實阿さ
年生者若候り父母をも出家さするかかす
一世ハりきうへつらん世々めて父母乃恩也
丈十二因縁よりも父業のあんうをむ生きて家死
しきてよせて流轉よ迴り事せされ輕安

著必く諸り父月終あらん心經達ハ原うて
五東ハ業か電ハ說を生死ときらかんとかふ出
くれ三の題よ候なれはさ約かだらかさよ下丈
生死よ流轉志て人るの男ハ生れハ父母恭し
ときられはて果こ因果經をありんりさくやせつれ
わくせされあん轉て事備れあらし我人を
生者ハかたよ父錢を害さて世く生死患の

海に浮沈みては法の舟を渡りもせね
それのみならず我文は他国よりいれなから
又は仏法流布の時節来れは法も盛んなり
我朝ハ東方なれハ仏法さかんに有縁の
月氏よりわかりし霊鷲来て東漸の教今弘まる
西光に深縁の国なれ深き道なれハ唯心の浄
土此所へ　シテ上　所とおもふもありや寂光ハ此都の
古さと去て保色の村南無やら渡の鐘
来迎た遊地せし仏ことこらんてんのおほくは
てぐりをせしちうられ積善寛ちやわん
三条のち河らまでも積りと経て渡へど
満ち羽揺中まて河雪の古枝れ寒く
ふし二度花咲ぬらん　へ大川渡り渡
亀高楼處　詞　楼閣よりれとやらんなり

其ハ又早打来れハ、ぜんしこれらの御使

いや某儀ゆくハかしこ若殿別当の御

中よりわれらハ十余人の内七人兼て術也

相続家来ハ七人の内ゑ御寵しく先祖

む、何とぞ兄弟別当殿にハ中にもよりがたくと七人の

忍術の事一番ハ別当殿にハ身をかへ

二番ハ忠藤次ハ゛三番ハよ

先陣ハたゞ兎角ハ゛乎勝軍ハ素懐と存

の下の打立家まて兄弟の嬉しさも

中にハ思ふ親のかたきとれハ

よく雲ハへげんと纏して父の情

兄弟のよしみ縁より家より来れ

めでたくいせん

いうに

承應の比年號も改まりしが清一
統とゆづりて後の今上代々に
十種の寶しきりに宗と表して稿り
當代の御宇代の君が壽承應に豊かに定
て千秋万歳の　松（上）枝茂る道の影も巡る
民新日の道の二度（ヤハ）乃神風も吹き巡る
きせの路歳久しく年を限りし契り志ん重い

けふこそ時といふその月日出度祝ふ四季の
君か代守れハ表祭も限なく千秋千
乃宮も栄ゆく君の千秋万歳乃鶴の舞
亀は千尋の底よりや八千代の世に八千代をうけとる
乃　祝ふ心ぞ万歳楽　めでたき持ちし一指
は舞ふ　祝ふ心万歳楽　東海の千
梅の山の松も春来れ　千代乃新しき若緑

なく若緑なり　老木も若緑立や行

の親の子より又ハ兄弟と云是といひ

何色以遂まとも夫婦親子兄弟と家嫡の

帯も悦べくと守り語ふ云孔文の御利

生と御夫婦と親子兄弟さも正しくぞ

[illegible]へ出て帰りけり

蘆刈

次第

ワ　古の都の道あれやみやこの道あれや

難波の浦を尋ねん　詞　是ハ都方に住居の者にて候

住へや若者にて候然に是に候御乳の人

若子の御乳の人[illegible]

去りぬ人の心やゝ深き[illegible]法輪ある[illegible]

[illegible]

此所に用し親子の人[illegible]御親の人[illegible]

[illegible]

うき御縁も御乳の人の御ちよかりけれ母

御付申されて候へば思ひもよらず若き女房を
にもそれに付中々やうの流浪致し候へば
殊更いかなる人ぞと尋ね申されければ我ら
津の国難波の日下の里の住人にて候が
妻にさる事の候て流浪の身となり候ひ
ゆへをも渡世と存じて世を渡り候へども
かやうの見苦しき姿となりて候

より我ら此所に住候今津の国難波の浦にさての
里へと来るはなれ 上 淀や美豆野の川の末に
く親も鳥羽の山崎や宝寺水無瀬川
森をよそに鵜殿の蘆
なにの名も梅行かばとこそ江口の里過ぎて
みつの浦にも着きにけり着きにけり
にて候程なく御津の浦に着きて候在所の人に尋ねばや

あ付申されけるハ、我もしすけをよ南き
ハあそこへ人申しからバ流され給ハ何とやらん
我宿をいかなる人とも御宿申され候へとて我を
津の国難波の内さえの里に宿をかるが
書写寺の辺にて流浪の身となりし世捨人
ひとへ頼みとたのみし世捨人にハ候へとも
わかれられバ思ひ出をもかたりまいらせんとの事に

よつて我家山出、唯今津国難波浦なるみの
里へと志さしける、須磨や明石の浦の、波の曙て
く就ても猶くるしの山の、ふもとすぎ、水無瀬川
漆ぬる森をよそに見て、行末も渡辺の
たえの橋も渡り行ば、あそこものゝ里近くば
あかしの浦よ若はかりく此恵て程は東の里
に付てはげに山中よりあて左馬殿の山行末依

[illegible]〽[illegible]

末〽[illegible]の流れの末の[illegible]

[illegible]今は山の[illegible]よしやは

〽[illegible]八親[illegible]

たゞ今とこそやすくなれ八[illegible]

あはれ[illegible]の果は[illegible]

[illegible]の[illegible]言

[illegible]

此[illegible]〽は[illegible]難波の浦よ

遥[illegible]を見るとても〽[illegible]

中[illegible]越〽[illegible]山[illegible]難波[illegible]

[illegible]の[illegible]浦[illegible]

[illegible]の[illegible]難波[illegible]

[illegible]難波[illegible]

[illegible]浦[illegible]〽[illegible]

日

おしてるや難波の市のかくれなく
名もなにはに昔も今も難波の浦の市に[illegible]
あしをかりて世を渡るの者[illegible]又市よ
出てやと思ひ[illegible]蘆かるいやしき身へ〽蘆
[illegible]山へ〽元若菜を[illegible]多きれとも
はかなく[illegible]蘆を売らんとて[illegible]
身のうさは世を捨て[illegible]一本を買取る人へ
よしや世中は〽けふ[illegible]心
人も惟[illegible]我身[illegible]〽其難
波乃蘆を[illegible]
[illegible]我も昔を難波津の名におふ梅
伊勢人の[illegible]
[illegible]蘆の名も所によりてかはるなり〽梅
よし蘆の刈[illegible]〽[illegible]蘆

あ間し葉末そよぎはかげゑくは露ともなし
穂に出てまねく尾花ともいはまし
〽楓も錦なるかな秋の和みよ里てこそ思ふ
〽さしはけにしと伊勢人は浜荻といひ　〽難
波人は　〽葦といふ　〽所も難波の浦によ
しあしく蘆の海士の衣もそれなれぬ世
とも[illegible]れはかりの家つくりてよ蘆

〽よのなかはくだし市に出る蘆刈にあ河しそへ
てわすれぬやく露のかゝらぬ身のわが[illegible]
刈捨てぐよ所の事よりも蘆や舩あしに久
塩乃晝れらぬわすれぬやく　〽いにしへの
那須のよしあしの濱といはくよしあしそ
〽わすれんとぞ思ふも浦乃濱の[illegible]
寒さにや　〽わが梅さやかのあしの車

と尋申せばかうけるえと此美物ばぞ色なかく
よしなき事申しそ　しテ　わう御よにまかやざされハ
何とそかの民濱よハ旅うろの御ゆそくらぬゆるあにゑ
仁徳天皇此難波津よ宮作りして位世猿
ひよりくゞ此津よりひくらの濱より中越
謂ともけハ尚の居宮后より浦お
遠岸此津の濱より野り於　しテ　此濱海邊の

たまなれば漁村よらん篝火近くぞ捿處
寿その此比見えてくもゞ雲と見月卿よ
ぞ王寿民のかまどまでも豊なりけるわざと
の゛世と聞き今迄までわりきらま例そうし
居ぞわま此繁昌せよ此の濱よあとこゑ東
漁網船のえのやくとも世あつかや　同上　衣
おしあふ難波はのくにきもたかなりけら

ますらをもわるとすゝしくわしとあふ游海

ものよひあすく濱をとびかたあそぶかり網

れ月の前よ見んところ稲わまい境せ

よやんて 雨もやかわらんくよ入んせ八

や津国の難波わたりの春気色なるか

ろ舟あれや浮れ鴎磯に舞遊ひまろて

あ浮蘆海はれしや舟曳んかり 雨ふらぬく

田蓑乃橋を渡る事三八家を越え屋敷

笑ひはやらぬらん 難波津の春なれや

咲やこの梅の花笠 ゆふて嫁の花柳れ

ちやふさもまそなの 月も笑ん顔をと

ち 天津乙女のねらき 天か乙女 覚

八文字難波女あるくかへく袖ひらひらの

雨のお亀のこ河かくらをかさわるそくへき

らるとち今ゝよひのちからりさらくさる
と風の撥ゝ衣の夜つまさくまかにはれ
やゝ（つれ）＼されハ雨の中の霜の中に花の袖
ながれ出て候かし申かハしれ候（つれ）＼いや
つたへ事にて候（つれ）＼何事にて候そ（つれ）＼今ハわか変
者にてわかく候て藤の作は＼（つれ）＼ねは
よそのかはゆるに候興にからりの蕙

ともかくれ候（して）＼安きほどの蕙ともあれ候（つれ）＼や
直に持て御事おまゝの御事にて候（して）＼絃
の果報の候頭に陣と候旅（つれ）＼いや果報な
る御身にて候ひ直に候て御事の候＼わかふ
さや今の蕙変者おもわかて来の候と闘
く逆去の後付て撥に茂殿の左絃と
申事にて候ぞ（上）（つゞ）＼今も候ふなりつゞきあれ候

さの御代へさた今これ高き何若と続くたんはへば

ゆふ色へふてはやわか湊ましのとふや

はかめてこれは筆はいは給ふてにて

まろく出て向ふく出へ座て延喜村とめ

よ申 いやこれは出雲の宮て御事

世にへし嘉き御代それ申申されね

さては出雲のよ嘉のへし いそれ此者申

ひらそ昔まて系へ出へ給まらせし今の

継乃 これそ継これこれそれ今の世迄

樋これおかかれて事いいふへ思て

世継ふらんも出て世継ひ出へ 是八幡宮

かそれかれ現在の宗廟のめくみとは申

とふひありかつけるも出 かくあるへしと思

あまたの御代田宮これあまた別かしさぬ

くれは書屋守しなからん〈萬民ゆたかに
あらはれてとのつ雨露みれふかしてみなれ
むり別るゝ悉折てわりのきのとふかは
そばにも難波の浦も住よし　わかうし
よそ人も別きめ何か難波の浦は住よき
ふた〈霊や難波津の香に山は道の史
婦のあからむれは　さのまた紀をとりて

みやこの隅てもあめのあやの戸をおしあけて出る
ら冬ごもれ春ごめや三年の色しらぬまれ
宮川に吹風は松原や高津の海にひしそ
[illegible]
難波の花むしり渡らん　〇クリ
いりせ浦のなからふ花難波の海　丈高き山は海
山は世に影ありし情とや〈人を恵ミ出
蒼波ひく出て　女郎花の一ときを移

とこなびひあくさしの露その霜もたゞ
母梅樹の何の其れ消へ難風より
花の香の袖に薫れさもそう
の春なれ羽なれ花ぞ後をなす王仁難波
津に咲くや此花冬ごもり今ハ春べと咲くや
此花と栄へ給ひし仁徳天皇と崇めまゐらせ給
めし、か難波の御子は事又浅香山は言
は歌なれば采女の戯れよりよみとのへし哉
とやぜ此歌を今世の歌の父母成なる
世ゝに和歌を翫ふ花鳥の言葉て様々の
て我ホてにのてあふちめ成へし能なれ
見えぬ鬼神をも感ずげ武士の心をもなぐさむ
夫婦の情をなす事も今此歌にとあるまゝ
より津の国の難波は喜はしかられや

菊乃稲葉よ風ふく曲水の流れにも
浅く[illegible]これ深のまか[illegible]
らし蟲乃音もすゞ道を津[illegible]せめや[illegible]
ぬ人[illegible]あふ難波の浦に打よせ[illegible]
つま[illegible]ふかんにも[illegible]されば[illegible]やい
りせれなるられ[illegible]の[illegible]あひて[illegible]や
[illegible]らしヤ　おもひ出ても取[illegible]わか[illegible]那

波にのをれ川の浪[illegible]へさ[illegible]
居るみ　橘[illegible]よりや[illegible]
[illegible]露れ[illegible]よりくれ[illegible]
のみかひもかへ[illegible]那　いかに[illegible]
月出度[illegible]てうし[illegible]へ　句ひ
もふえだれくる　浮世[illegible]難波江の
くわれ[illegible]の風を[illegible]

花もうらみに津國のあやし旅寝のなごり
里今ぞまことへと都の空にかへて遠路
やすらひのぼりの浦もの思ひと難波の
遊ぶぞうれしかりけれ

安宅

ワキことハ

是ハ加賀國とかしのなにかしにて候扨も頼朝義經御中不和にならせ給ふにより判官殿ハ十二人の作山伏と成て奥へ下を頼ミ下向のよし聞召及ハれ國々に新關を立させ山伏をかたく撰ひ申せとの御事にて候去間此所を某承て山

御とらゝめやかにと月を曇やうつるやとね
はいつ迄誰かおつゞ今日も山御の御座り
おふらうへやはへ　振乃衣ゑしもさらば
く露きえ袖やしかりけん　ちらりんしそれ
隠ふれど都のかたみ親は目もくらくの越
語の身を思ひあはぬひるも袖ゆかれて　掻
御供の人ゝ身に　伊勢の三郎もろとも

六郎片岡海か常陸坊　弁慶を先
達の深ぞかくゝ　主従以上十二人はづる
おもひぬ旅とて袖のちりけ露かなしくも
見けそめていつまでれぬ我もよそめやまぶしの
越路の春は悲かりけり　時しも比は二月や
く衣更着の十日夜月の都をふら出
て覚束なくも道のも別くらく涙

志らぬも逢坂の山かくれ家[illegible]
めにさへ浪[illegible]
浦[illegible]の[illegible]
[illegible]山[illegible]の海[illegible]
さやが松の[illegible]山[illegible]
比え山へ[illegible]河瀬の水[illegible]
[illegible]川や[illegible]三国の湊[illegible]

かの浪よせて[illegible]
花乃安宅[illegible]
是ぞ加賀国安宅の湊に[illegible]
[illegible]
弁慶[illegible]唯今旅人の中[illegible]
[illegible]山伏[illegible]安
宅の湊に新関をすゑて山伏を撰[illegible]

流主　シテ　言語道断の事にて候物かな。桜ハ御下向と存て立之聞候へば花ハ盛しき法大事にて候が花ハ尤つゝく御談合わか姫にて候　花ハ法大事の御事にて候ぞ御宮参之花井九遅りと存され御やすへ　主　我等も存候ハ、何寺のゝ九候へさば早打被て御遊り申しと存

シテ　艶候ば、御九出来く付開一本折被ぐ候遊りわらぞ候ハ安き事にて候へとも御下向と存て立之聞にくゝ候ぞ御折来り候大事にて候ば候とも若九ぞ紀へろ申候と存候　判　思ふ子細の申候ぞ、まくも舞笑ぞらいる候へ　シテ　畏て候ぞ、九折しさく案出しけり事にて候、錢其被始てみ

なくみつゝさ山林にかくはるか何とかゝとも

は深山かくれかくれ家はあらしはるかにくや

いつと病は愁をさとさ事もなし入れ

はなくひとのけふまてありてのちれと

ひさ候は発と年度はるゝれとれ、まてまゝ

梅のくと花まて残木よりのほまて山さとのく

（此歌）此歌はかくて浦くへなまや申てまいらせ

右の歌は（判）宮居のむかしのやうにて文ハ此まゝ

うきことも侍れ（と）いつかはかりそさ海の落を

此扇は忍る乃ハなんかの貫那さるは筆れ

てかならんか出んて海に出へり國の橋杯とらん

擬せる山林を撰の文をも秘中をもならすて書付侍れ

（扠）思ては（して）宮居るれなおみ堂生れかくも

ことはり（流）剛さは御よりも見とあけさと御

されなかり

よゝけをめさへくわされ給とは身侍へ

（判）あれのゝ見え乃おひしさ露と義経九郎

ゆかけ　弦の上或は両波に箙つけく

（判）おや露盤ゆくわをとかくし　金剛杖か

もとり　（判）見いつけあはつ　剛力かゝくよ候

くらふるおひを持給ふはなと振て痛いさ

いかに申候客僧達の此通りふその何て山

仏達れ大世いわ海りとゝかた給て出こゝ

に客僧達是に関かくの　承は是ハ

南都東大寺仏法の為に国をへ客僧と

つかれ仏法の道を以て客僧為て廻海

仏先生わ此は入候へ　勧めを入合候てき

あからば是八山伏に限て笈中関かせて候

扨は謂候は　さむは勧進義理候

不知よきか世給ふよしの判官殿八十三人の能

みな山伏と成奥秀衡を頼み下向ありし

よりこそ此安宅道に廻して新関を立て山伏

と云撰ひ出せとの事なれは去なからの

所とは某承て山伏と申はにて候先ハ大形

御通候ハ只今一人も通し申ましく候〽委細承

候ぞそれハ能山伏とこそ承て候へ共作ハ偽ニ候

然の山伏とも承り候〽いや此関にて三

人切て候上ハ〽扨其切たる山伏の判官

殿か〽いや何様にも我〻一人も通し申

くの〽扨我〻とても是にてうたれさらん

上ハ〽中〻此上ハ〽言語道断の次第

不運と申なから是へ来りて候ハ抱られハ是非に

かよいねまて安宅ハ家縁渡乃洩とも初て聞

常にちかせられしも法らか意んのいは波
を結ひ給へ　仏教は結ひとめ給へ　丈山
術とりつ八ぶきんのうそくにさかぶさを結
其身は不動明王のそんようをとる也
きうさんの剣　大智のかうごんなり
十二因縁のきゝをあらくいふは　公意
満ん両ぬれりんの正いけ　胎蔵らくしき
のまろきをいふは　梵文八月の五んたは
八葉の蓮花を始給へり　出入いきさ也
あらはれ二字をあらす　即身即仏の山伏
を蒙むく打尊結んす　明王の照流汁也
かぶふ　熊野権現の所得をわするん事
ふら所よとめて　くうん　又えへらんや　庵
あひらむたんと珠数さうくとなしめ八

〽そも〳〵此寺と申すハ南都東大寺の
勧進としほう〳〵かうかく勧進帳の寺
庭をたる事ハ法源し勧進帳をあそばされ
は〽是にて経文やら何やらかいたは〽経を
法をよめとはや〽申しければ〽たちまち勧進
怯ハあらハれかひの中より法華の一巻一巻
取出し勧進帳と名付つゞけよみあそばす

それそれ泣くかりんとれハ大慈悲の来れ
秋の月も涅槃の雲にかくれ生死長夜の夢
さめがたしちゃてへきたる普化禅師御門お
つまずは名をハ虚空帝と名付なりまへ
あはれかハかれあハれ虚無僧とうゞん
眼ふさいて淡是を吹ながら首もふりぬひ
ゆくへしらぬ盧遁禅佛と遊行寺がみやこの主い

ちゐられば重源あんひとよろこびて高見せさせら
勅宣諸国を勧進す一紙半銭の奉財の
輩は此世にて無比のらくにほこり
らいにては数千蓮花の上に座せん帰
命稽首敬白と天もひびけと讀上たり
関の人々肝をけし恐をなして通し
けりく恐をなして通しけるへ関はいかに

弁の判官殿お通りあるぞ　何判官殿お
通りとやらんで立　いかにかうとこそ聞
と候　ある我等をお手出ハ強力め給ん
抱ねばとて皆一同に立帰り　おゝ物ぞおそ
て衆とをさそん候ふ　いかに御聞ちんし
て見んと立給ふは　いかにこれは何とそて
急ぐめそ　おれほどに此方な強力か使心

何とて止めたるぞ　ワキ　さん候人に似たると申者
の候程にとめて候　シテ　何人ハ人に似たるを
とめつらしからぬ儀にて候ハ誰に似たるにて候ぞ
ワキ　判官殿に似申と申者の
有ほとゝめて候　シテ　言語道断の判官殿に似たる
強力めハ一期乃思出な腹立や日高くハ
能登の国まで越さうずると思ひつるに
おひハ負て後にさかれハこそ人もあやしむれ惣じて
此程ハやゝもすれハ人とおもハるゝハいで物見せてくれん
とて金剛杖をおつ取て散々に打擲す
はや出て　ワキ　いや何とやらん様が通しまじく
候　シテ　笈に目をかけ給ハ盗人か
方々ハ（フス）何故に（上元下）かゝる（ヤリ）
いやしき強力に太刀かたなをぬき給ハめかきかほの

まよひのふかき[illegible]

山伏や打刀をさしてげさをかけ[illegible]

いかなる天魔鬼神もかなはじとこそ[illegible]

[illegible]

して かくて[illegible]

先の関所をやすやすと通りて[illegible]

此所は[illegible]

上の袖を唯今ハわかれの[illegible]

[illegible]

[illegible]今舞楽の杖[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]舞楽を[illegible]

[illegible]舞楽[illegible]

なすわざも[illegible]唯天の[illegible]

関羽者我とわかれめぞ宮りかゝりつゝ
所よどこと此尭帆ともしらずしてただ涙と
の給ひつゝあかくさんくれ共我と子すく流
荒舞夢より隣よわす寸八幡乃御託宣う
と思へば我く推かかへり史世の末世に
為かくば今も同居のいまく住よ暮孫守た
き凡に威方役ありて家を虎と打枝の

天舜よわすれぬ事なれどもさ　〽宝座現在の
今を見くるも過去未来を知る事今は志わ
られし身れ上よらん年月の夜文忌は座ゆも
の千月れ夕の縁と道連に行らて具縁れ
るく行なしる十余人葉れ先と行から
て生ひよありてとわかれ住にけら成
ゑく孫の飛張翼徳小義須は馬の嵜住逢

さる命を投ねになりからひを沈海の流れ
あ志川の山路海路にかゝりわれらの姥
乃鐘の音秋くしく深き浦上に[illegible]の舟
まらひ風波に身を何世有付ならさん也
のゝ歸色見ぬ雲れらは海ましめの夕流れ
悲しさよや須臾の流れぬ三年は猶も
あく敵をおもふ浮し麗く世のさまん八勤の流は

判上
識あるは身れはまつ何にか因果ぞや
子宝や思ひ年の[illegible]浮世ふかれと寺
どちらは色なきをかめ世八様にの盛べし
心苦しき深あり[illegible]の世はまよひ
多くんの雲に[illegible]の電[illegible]の世かな
迷ふ浮身をおもひ[illegible]世の[illegible]
於も佛の海[illegible]浮世[illegible]

うらめしの浮世や　ワキ　いかに[illegible]申候

山伏達[illegible]程は[illegible]

[illegible]関守[illegible]酒[illegible]まいり

[illegible]先へ[illegible]候へ　シテ　何と関守[illegible]

[illegible]候へ[illegible]　ワキ　[illegible]

聊爾とや[illegible]酒を持て[illegible]ひとつ[illegible]

[illegible]候へ　シテ　[illegible]

八

[illegible]通り[illegible]候へ　ワキ　[illegible]　シテ　実々是も心

えたり人の情の盃に請て心をとらむとや是

れに付ても人々に心なゆるし[illegible]

[illegible]弁慶は[illegible]山[illegible]

の人[illegible]

山路[illegible]のまゝ[illegible]

山[illegible]

ひくまて此のれは天さへかさか被られては

さや舞を海りよりも舞袖を語

名残りそふまい君ん年の御名は和歌の花

嵐山よその落花く錦よ空さくらそ あの

大堰の水葉へ綾錦の紋の花さかへは錦よ

亀の尾の山〳〵の空にみ給ふ（れ）へしられ

月の雪の花を遊ひしかし此葉の色

あらは八瀧の糸陸日を照し白妙の衣ちらり

ふなむらふたりとく〳〵そや川のほとりの

ひゆるとり闇穿れ人もいはゆるてさふ

まよひ嶺をあらはす扇のちらし虎の尾

とふ毒蛇の口をのかれさせらい深

の國へそ入りにける

右下條諸書往々板
行雖多言違章誤雜
計勝今亦闕不善補
不足當流秘密之加
拍子令改正者也

元祿二歳（己巳）初冬吉辰

日本橋南通三町目
刊 鶴屋喜兵衛